

1 教育目標	(1) 「創造力」 主体的に考え、行動する生徒を育成する。即ち、社会が変化しても周囲や環境のせいにはせず、自分の頭で考え、行動し、改善していける力を身に付けさせる。 (2) 「協働する力」 地域社会や、世界の様々な文化や価値観を理解し、尊重しながら協働できる力のある人材を育成する。 (3) 「人間性」 自他を尊重する精神と、生命を大切に自然を愛する豊かな心を培う。						
2 目指す学校像	創立50周年を翌年に控え、歴史と伝統を踏まえて「進学指導研究校アソシエイト」、アクティブ・ラーニングを推進する学校として都民の期待に応えるとともに、「部活動充実校」を標榜する高校として文武両道を推進する。きめ細かい生活指導を実践して地域からの信頼をより確かなものとし、多摩地域において希望の進路を実現する中堅高等学校として、本校を一層発展させる。		(1) 基本的生活習慣を定着させ、学習に対して興味・関心をもち、主体的に学習する態度を身に付けさせる学校 (2) 計画的、組織的に進路指導を行い、生徒一人一人の高い志をもった進路志望の実現が図れる学校 (3) 「時を守り、場を清め、礼を正す。」生徒を育成する学校 (4) 自主性に名を借りた放任は許さない学校 (5) 新校舎完成、創立50周年に向けた様々な取組を通して、伝統を基盤にしながら生徒自らが「学校を創る」気概を育む学校 (6) 生徒、保護者、同窓会(緑友会)、地域関係者及び教職員が愛し、誇れる学校				
3 中期的目標と方策	【目標1】 「進路指導研究校アソシエイト」 (1)高い志をもち、諦めず現役で4年制大学・短大に合格できる学力の養成 《方策1》 自主的な学習を促す授業改善、補習・補講の充実 《方策2》 進路指導部が統括し、学年が連携した組織的・計画的な進路指導 《方策3》 自分の可能性を信じ、諦めず高見を目指す進路指導 《方策4》 高大連携事業の継続 【目標2】 「進路指導研究校アソシエイト」 (2)専門学校・公務員等、多様な進路希望に応じた指導体制 《方策5》 生徒向け進路説明会の充実 《方策6》進路指導部と教科担当が連携した、英検・漢検等各種資格検定の実施 《方策7》 学習活動のポートフォリオ化で、学習履歴の確実な蓄積 【目標3】 生活指導・教育相談の充実 《方策8》 学習を基盤とした、部活動・特別活動に対する取組意識の醸成 《方策9》 服装・頭髪指導の徹底、基本的生活習慣の定着 《方策10》 部活動を活性化し、加入率を高め「部活動充実校」を継続する 《方策11》 セーフティ教室・HR活動を通した、自他の生命を尊び安全を確保する能力の育成 《方策12》 特別支援教育の充実 【目標4】 人と関わる力や、豊かな心の育成 《方策13》 生徒の自主性や協調性を育む、行事の企画と運営 《方策14》 特別教育活動、「総合的な学習の時間」を柱とした積極的な地域連携 《方策15》 読書習慣の定着(各教科・各HR担任と、図書室の連携) 【目標5】 効果的な募集・広報活動 《方策16》 (1)新校舎完成とアクティブ・ラーニングを推進する学校を軸とした積極的な情報発信 (2)新型コロナウイルス感染症対応を機に、ICT機器を積極的に活用した募集広報活動の展開						
4 今年度の柱	中期的目標の達成に向けた今年度学校経営計画の柱は、次のとおりとする。 (1) 府中東高等学校「グランドデザイン」を基に、本校の新教育課程を完成させる。 (2) 家庭学習時間の確保、自主的な学習を促す授業改善、生徒への適切な課題提供(自宅学習課題)、組織的な補習・補講の充実を図る。 (3) 進路指導部が統括し、各学年が連携した計画的で組織的な進路指導(説明会・模試・大学入学共通テストへの対策強化等) (4) 日東駒専等大学説明会の開催 ➡ 呼応した支援体制の組織、対象校を目標とする生徒向け説明会の開催 (5) 高大連携事業の継続〔杏林大学(三鷹市)、桜美林大学(町田市)、東京経済大学(国分寺市)〕 (6) 「教育相談(特別支援教育)推進委員会」を軸 ➡ ケース情報を教職員全員が共有 ➡ 個に応じて、組織的で一貫性のある支援を展開する。 (7) 組織的で一貫性のある生活指導 ➡ 頭髪・服装・遅刻等の改善、高校生としてふさわしい立ち居振る舞いを励行させる指導◀ 自主性に名を借りた放任はしない毅然とした指導と、きめの細かい指導の両立 (8) 部活動時間の適正な確保(平日と週末の休日)と、下校時刻の厳守(部活動顧問はコーチであるとともに、「教師」である。)➡ 家庭学習時間の確保、帰宅時の安全確保、ライフワークバランスの実行 (9) 部活動実績の維持向上と、部活動加入率の向上 (10) 校舎改築(今年度、HR・特別教室棟、体育館完成)と創立50周年(令和3年度)を好機ととらえた、攻めの募集広報活動の展開 募集広報活動にICT機器の積極的な活用を掲げる						
5 今年度の取り組み目標・方策	【1】学習指導 ①全教員が授業改善に取り組み、家庭学習が必須となる授業を展開する。 ②大学入学共通テストを見据え、思考力・判断力・表現力等を問う定期テストを工夫していく。 ③「学力スタンダード」を念頭にした「分かる授業」を推進する。 ④読書活動を充実させ、本を読む習慣付けを行う。	【2】生活指導 ①社会人として守るべきルールやマナーについての指導を、全教職員で組織的に、一貫性をもって取り組む。 ②自主自律の心を育み、自ら考えて行動する生徒を育成する。 ③いじめ・体罰を許さないという認識を全ての教職員で共有し、多様な価値観を認め合う指導をする。 ④生徒の様子や変化を敏感に察知し、家庭との連携を密に取ることで不登校やいじめの未然防止に努める。 ⑤下校時刻(19時00分完全下校)を守らせる指導を教員自ら徹底する。	【3】進路指導 ①進路指導部が中心となって、全教職員で指導のベクトルを揃え、進路情報の収集・共有、指導を行う。 ②「自らを高める環境」を目指し、諦めず高い志を維持させるように家庭と連携して継続的に指導する。 ③模擬試験の分析結果を教科会、教科主任会で情報共有し、授業に反映させる。 ④日東駒専を目標例に挙げながら、生徒の高い志と学習意欲を育む。	【4】特別活動(部活動・学校行事) ①校内規定を厳守し、学習の上に成り立つ特別活動という意識を醸成させる。 ②自他の個性を尊重し、相互に高め合い・磨き合う集団づくりを重視し、質の高い学校行事を目指す。 ③文化祭・体育祭や、マラソン大会を安全に配慮しながら計画的に実施し、諦めない信念・協調性・感謝の心を育成する。 ④地域との交流にも積極的に取り組み、ボランティア精神を育む。	【5】心身の健康づくり ①全教職員による指導・協力体制を一層確立し、心身の健康づくりと早期ケアを充実させる。 ②SCを活用し、学校全体の相談体制・カウンセリング能力のレベルアップを図る。 ③発達障害に関する知識を全教職員が共有し、個別案件に対しての適切な対応体制を構築する。 ④新型コロナウイルス感染症対応で低下した体力の回復を図るとともに、日頃の触れ合いや面談を通して positive thinkingに導いていく。	【6】 募集・広報活動 ①「進学指導研究アソシエイト」、アクティブ・ラーニングの組織的な取り組み等の成果を他の都立高校と共有し、その一層の充実を図る。 ②Webサイトの充実、ICT機器の積極的な活用により魅力ある教育実践を多数紹介し、広く都民に情報発信をしていく。 ③各種説明会の実施内容を充実させるとともに、新校舎完成とアクティブ・ラーニングを推進する学校としての情報を積極的に配信する。	【7】 学校経営・組織体制 ①常に教職員のベクトルを揃えるように風通しの良い組織作りを行い、職場環境を整備する。 ②PTA・同窓会(緑友会) と一層連携し、教育効果を高めていく。 ③新校舎完成、創立50周年を見据えた経営参画型の経営企画室運営を継続する。 ④働き方改革に基づくライフワークバランスを意識し、残業時間の削減等に取り組む。 ⑤服務規律を厳守する。

重点目標・数値目標	(1)「進学指導研究校アソシエイト」として、組織的な進路指導を推進し、希望進路の実現を図る。		(2)学習指導の充実を図る。		(3)基本的生活習慣の定着と頭髮・服装指導の徹底。 学習に関心が向かう環境を整える。 安心して学校生活を送ることができる環境を保証する。		(4)「部活動充実校」を軸として、特別教育活動の活性化を図り、学校生活に積極的に関わる生徒を育成する。		(5)募集・広報活動を積極的に展開し、入学者選抜の倍率を向上させる。		(6)生徒・保護者、地域から信頼される学校運営を推進する。							
	①大学入学共通テスト受験者 100名以上 ②難関私立大学又は国公立大学合格者 1名以上 ③GMARCH合格者 5名以上 ④日東駒専合格者 30名以上 ⑤大東亜帝国 30名以上 ⑥4年制大学への進学率 50%以上 ⑦進路未決定率(進学準備を除く) 10%未満 ⑧就職希望者決定率 100%		①補習及び講習 毎週実施 延べ30講座以上 (今年度は、夏季休業中に新校舎移転、並びに新型コロナウイルス感染症対応のため、3学年に重点を置いて実施する。 昨年度は55講座実施) ③漢検準2級以上合格 30名以上 英検準2級以上合格 20名以上 (担当教科主導で、進路指導部・学年担当が支援する。なお、取得者数等、実態把握を担当教科が責任をもって行う。) ④図書館利用者数 昨年度比10%増以上 ⑤教員相互の授業参観 年間3回以上		①茶髪等の髪染め・ピアス等の装飾品 0名 ②遅刻 年間延べ人数 5,000名以下 ③特別指導件数 5件以下 ④いじめ、体罰 0件 ⑤下校時刻の厳守 平日 通常 17時00分 部活動顧問・生活指導部許可の下 ➡ 19時00分完全下校 週休日・祝祭日 17時00分 ※大会会場校等、運営上必要な場合 18時00分		①新型コロナウイルス感染症対応による活動自粛で生じた競技力・技術力低下の回復を図る。 ②部活動の教育的な意義を再認識する期間として、次年度に備える。 豊かな人間性 個性・能力の伸張 社会性・責任感 規範意識・協調性 学校への帰属意識(母校愛) 豊かな人間関係 充実感・達成感 活性化・魅力的な部活動 次年度の合宿構想・企画 新規参入(ex 剣道・天文・プール完成に向けた競泳部の準備)を推進する。 ③部活動加入率 70%以上		①推薦入試倍率 3.50倍以上 ②入学者選抜(前期)倍率 1.50倍以上 ③学校説明会来場者数 2,000名以上 ④学校見学者数 2,500名以上 ⑤本校Webサイト アクセス数 250,000回以上 ⑥新型コロナウイルス感染症対応を契機に、ICT 機器を有効活用した募集広報活動を積極的に展開する。		①生徒の授業評価満足度 80%以上 ②生徒の学校評価満足度 80%以上 ③保護者・地域の学校満足度 80%以上 ④服務事故 0件							
重点目標達成のための具体的方策	【Ⅰ】生徒の学力向上		【Ⅱ】生徒の家庭学習習慣の確立と自学自習の態度の育成		【Ⅲ】高い目標を目指す進路指導		【Ⅳ】自主自律の精神を涵養する生徒指導		【Ⅴ】募集対策の一層の強化		【Ⅵ】組織的・計画的な学校運営		【Ⅶ】経営企画室職員の経営参画		【Ⅷ】PTA、同窓会(緑友会)との連携		【Ⅸ】その他の取組みと将来構想	
	(ア) 全教員が授業改善に取り組み、予習が前提となる授業展開と、課題を提供し、必ず決められた期限に提出させ、家庭学習を習慣化させる取組を推進する。 (イ) 教科会、教科主任会を充実させ、教科の枠を超えた指導法の情報交換、卒業までに身に付けさせる学力観を共有し、評価の在り方を研究する。 (ウ) 教員相互の授業参観(他教科を含む)を年間3回以上必須として授業力の向上を目指す。また、指導教諭の授業公開への参加を奨励する。 (エ) 「進学指導研究アソシエイト」については、全教員で取り組み、成果発表の質を向上させる。 (オ) 生徒の学習成果をポートフォリオ化して、生徒自身が学習の成果を実感し、進路準備の一助となるようにする。 (カ) 授業や図書館から推薦図書を積極的に情報発信し、読書への取組を進める。		(ア) 文武両道の精神の下「特別活動は学習の上に成り立つ」という意識を醸成し、家庭学習時間の確保に努める。下校時刻の厳守。 (イ) 授業でICT機器を効果的に活用する。 (ウ)「定期試験に向けた勉強」という意識を大切にしながらも、自ら学ぶことの必要性を意識させる。 (エ)家庭学習を定着させるための自宅学習課題について、教科会・教科主任会を通して、必要かつ適切な質と量を常に検証し、部活動とのバランスを図っていく。 (オ)長期休業中の講習や補習の実施において、予め関係分掌(進路指導部・生活指導部)が協調して、部活動とのスケジュール調整を行う。また、講習や補習は一部の教員のみが行うのではなく、年間一人1回は開講する。		(ア) 進路指導部がリーダーシップを発揮して、学年と連携した進路指導計画・面談計画の実現を図る。 (イ) 模擬試験の結果について、各学年・各教科で速やかに分析して、進路指導の一助とするとともに、必要があれば授業改善に役立てる。 (ウ) 模試の分析については、各学力層の動きを分析し、各層に応じた集中的な指導を検討する。 (エ) 個別面談や三者面談を充実させ、一人一人の生徒に諦めさせない進路指導を行う。 (オ) 学年集会やオリエンテーション、保護者会等の内容を充実させ「現役で4年制大学合格をはじめ、専門学校進学や、希望する職業に就く。」という目標に向かって努力し続けることのできる取組を進める。		(ア) 高校生活を通じて「個性・価値観」と「わがまま」の界について生徒に問い続け、真の自律と責任ある行動を身に付けさせる。 (イ) 部活動指導計画を部活動保護者会を通して生徒・保護者に示し、部活動と学習活動のバランスを図る指導を徹底する。 (ウ) 生徒の意識改革を図り、生徒が主体的に、そして協調性を発揮して行事・清掃活動に取り組むよう支援する。 (エ) 生徒の心身の変化に注意して、健全な学校生活が送れるように情報共有と、組織的指導を推進する。 (オ) 特別活動(部活動・学校行事等)の在り方について常に評価し、活動の質の向上に努める。 (カ) 昨年度から企画されたマラソン大会を通して、ベストを尽くすことの大切さと、健闘を称え合うスポーツマン・シップを学ぶ。		(ア) 各種説明会等において全教職員が組織的に取り組むことにより、効果的な募集・広報活動を展開する。 (イ) 生徒の日常の生き生きとした活動が見えるようWebサイトを逐次更新し、本校の実践と魅力を積極的に発信する。 (ウ) 中学生とその保護者の目線に立ち、学校説明会や学校見学会、文化祭(緑陵祭)等の充実に努める。 (エ) 掲示物等の工夫をして、来校者への情報提供を積極的に行うとともに、親切な対応に努める。		(ア) PDCAに基づく進行管理を図り、各学年・分掌・教科が連携して学校経営を行う。 (イ) 企画調整会議録をはじめ各分掌、委員会、学年の議事録を適正に管理、回覧を行い、学校運営に向けたベクトルを揃える。 (ウ) 保有個人情報の取り扱いを徹底して事故0とする。 (エ) 進路指導・成績管理・入学者選抜業務について、複数による複数回の点検を徹底し、事故0とする。 (オ) 教科主任会を教科間の垣根を越えた横断的な会議と位置付け、組織的・計画的な学校運営を実践する。 (カ) 会議の議事を精選し、定時開始・終了の励行、TAIMS端末を有効活用することでライフワークバランスにつなげる。		(ア) 教員の意識改革を図り「チーム府中東」として、経営企画室の学校経営参画を推進し、計画的・効率的な予算執行に努める。 (イ) 各種事務分担について、随時点検を行い、円滑かつ適切な進行を図る。 (ウ) 教員が経営企画室と協力して学校を創り上げていく意識を高めていくとともに、進行管理を適切に行うことにより、経営企画室職員の残業時間の削減に努める。 (エ) 新築(改築)検討委員会を軸にして夏季休業中の新校舎移転を無事完遂させる。		(ア) 創立50周年を来年度に控え、周年行事委員会が主導し令和3年11月20日(土)本校体育館開催に向けてプロジェクトを進める。 (イ) 管理職のPTA役員会への出席、PTA向け講演会等の開催など、PTA活動を支援する。 (ウ) 緑友会との連携をさらに深め、在校生支援の方策を模索して、生徒の在学中、卒業後の生徒の見守り、支援策を検討していく。		(ア) 府中東高等学校「グランドデザイン」を基に、本校の新教育課程を完成させる。 (イ)「総合的な学習の時間」、部活動等の地域行事への参加、地元中学生に向けたスポーツ教室など、地域との連携や活動への理解促進を図る。 (ウ)読書活動を充実させ図書館利用率の向上を図る。 (エ)「府中市三水会」、「府中市第六地区青少年対策委員会」、「府中市教育委員会、中学校・市内都立学校連携連絡会」に積極的に参加し、募集広報、地域連携、進路指導連携に資する。	